

◎ 刊行物紹介 ◎

小冊子「北海道で漁師になろう2」を発行しました。漁師という職業に興味を持っている人にいろいろな情報を提供するために制作しました。この冊子は、漁師の子弟ではない人たちが研修を通じて漁師になった経緯を紹介しています。興味のある方には無料で配布しますのでご連絡ください。

北海道で漁師になろう2

北海道漁業就業支援協議会

私たちは 新米漁師です

将来は何でもできる漁師に！

とにかく大漁したい！

気絶するほど魅力的！

礼文島での漁師は夢でした



松前町札前 気絶するほど魅力的！ 熊本 正伸さん



熊本正伸さんは昭和58年生まれの28歳、函館生まれの函館育ち、地元の函館の専門学校を卒業後、東京の会社でシステムエンジニアとして働いていたが、小さい頃からの夢であった漁師になることを心に残っていた。辛い、厳しい漁師という職業に就けなかったという思いは、漁師であった祖父が強く反対したため、漁師になることを封印していた経緯があった。



しかし、祖父の死をきっかけに漁師になる夢が、

次第に膨らみ始め、漁師になることが現実的な夢へと変化していった。そのような時に、インターネットで全国漁業業者確保育成センターが平成21年7月に開催する東京での漁業就業支援フェスを知り、早速参加した。そこで、親切に話してくれていたあるブラスの漁業者に、「今の職を辞めない方がいいよ」といわれたが、どうしても漁師になる夢をきらめきれなかった。

そのような時に、インターネットで北海道漁業就業支援協議会が平成22年7月に開催する函館市での漁業就業支援フェスを知り、勝手知ったる函館というところまで行ってみたいと思った。そこで、指導員となる松田敏廣さんとの運命的な出会いがあった。このころ、親方の主な漁業はホッケの漁業とそれと付随するホッケの卸業。祖父が漁師であったことから、漁業に多少の知識があったので、「珍しい漁業の生計を立てているのだな」と思い、興味を湧かせてきた。この興味を出发点として、現在も指導してくれている寺田敏廣さんに師事し、現在に至っている。



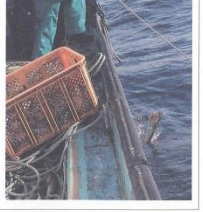
ら道費の長期地研修を受けた。これまでの研修で辛いと思ったことはなく、海にいただけで幸せと感じ、厳しいながらも充足感のある研修生活を過ごしてきた。研修を受けた漁業種はホッケ漁業をはじめ、マグロ、本釣り漁業、採漁漁業およびヤリイカ敷網業などであるが、研修期間の多くの部分をホッケ漁業と並んであててきた。ホッケの籠を海に投入する時には、七〇個の籠を五分で流す必要があり、体力と技術の向上が課題のこと。

平成23年の4月から進級組員となり、24年の4月には採介漁業員などができる正組員申請をする。最初の研修を修了した時には、親方から中古の磯舟をプレゼントしてもらい、正組員になった時にはその船を使ってきた。研修を受けた漁業種は、平成22年11月には、級小艇船操縦士を、23年1月には2級船士特殊無線技士の資格を取、組員になった。その用意は万が一の場合、親方や親方の家族、近所の人そして漁師仲間の人たち。彼は人間環境に恵まれていると感じている。また、病院や買い物など生活環境に不満は



なく、漁師生活を楽んでいる。独自の経験や見聞を伝える。若手の中には、そのことに触れた時ははかむ顔からは、そのようなことは今の彼の中ではまだ大きな問題になつていないと感じた。彼が思う自分の長所は「根強い」といえる。それが裏目に出て、あまりに祖意がすべり倒れそうがある」と話して話していたのが印象的。彼自身、人間になるには10年くらいかかると思っており、「その頃は五十ぐらいの漁船を」と目を見やせていた。

親方の寺田さんは、熊本さんの家族として扱う家族会議で決めたことである。今後、熊本さん本物の漁師になることにより、寺田さんと熊本さんの本当の意味での二人三脚が始まる。



大学に入るために漁業と縁のない海なし県の奈良県から北海道に渡り、大学卒業後は水産系研究者を目指す人が多い大学院に進み、その後漁師を目指して入る人がいる。興味深い経歴から新聞も取り上げるほど話題になっている。その人が山本靖弘さんである。



彼は昭和58年生まれの27歳、大阪生まれの奈良県育ち。魚や釣り好きなこともあり、大学の学部は水産学を選んだ。大学卒業後の就職先として民間会社を検討したが、「これだ」と思うことができた。将来の進路を決め、また大学を卒業後大学院に進学した。大学院での野外調査と野外での人とのかかわりの中で、自然の中で働く職に憧れるようになった。その職業が「漁師」。



そのような時、インターネットの本ホームページで北海道漁業就業支援協議会が開催する漁業就業支援フェスのことを知り、早速、平成22年2月に行われた旭川市と函館市での両フェスに参加した。その間に参加したのは「就職の選択肢を広げたい」という思いで、特定の浅海漁業は自由に行ける状況であり、ウニ漁には試運転済みとのこと。春にはナマコやタコ漁業などにも挑戦したいという希望を持っている。日曜日は磯舟で釣りをしているとのことだが、地元の人には「漁師が休みの日にはわざわざ釣りをするなんて？」と笑っているそうだ。現在進行形の次産業（加工・流通・漁獲・生産だけでなく、魚介類の漁獲、販売にも事業者が主体的に関わる態勢には興味なく、「もしも」とも北海道の漁業のことを勉強して漁業のことを知りたい」との抱負を語ってくれた。



「漁村では女性と知り合い合っている機会が圧倒的に少ないのでは？」と質問すると、そうですね、でも僕は幸運にもある女性と知り合ったことがありました。と、はにかむことなと答えてくれた。地元の人と良好なつきあいをしているようであり、漁師の一家を構える将来をしっかりと見据えている。



寿都町歌棄町 とにかく大漁したい！ 山本 靖弘さん



中山さんは札幌生まれの札幌育ちで、大きく職内容を変えて転職した一人だ。大学では漁師とはほど遠い教育工学を学ぶ。大学院では臨床心理学を学び、その経験を生かして、福祉関連のNPO法人を五、六人で立ち上げた。しかし、経歴を生かしたNPO法人での仕事も課題が見えてきて、30歳少し前から転職を考えるようになった。

農業や水産業などの一次産業に興味を持つようになった時、偶然全国漁業就業支援育成センターのホー

中山さんは札幌生まれの札幌育ちで、大きく職内容を変えて転職した一人だ。大学では漁師とはほど遠い教育工学を学ぶ。大学院では臨床心理学を学び、その経験を生かして、福祉関連のNPO法人を五、六人で立ち上げた。しかし、経歴を生かしたNPO法人での仕事も課題が見えてきて、30歳少し前から転職を考えるようになった。



親方である杉本さんと一緒に漁業を行っているが、「将来は杉本さんが会社を興す時に共同経営の一翼を担いたい」との希望を持っている。22年10月には准組合員、そして23年2月には正組合員と順調に漁師への階段を上っている。

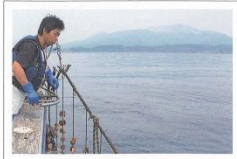
23年3月11日は忘れもしない東北地方太平洋沖地震が発生した日だ。伊達市の港は一瞬水位が上昇し、五割近くの養殖施設が何らかの被害を受けた。中山さんと親方はその後の処理に多くの時間を要し、安定していると考えた養殖業にも、最近是不安定さを感じている。

将来は「養殖ホタテ漁業、ホタテ桁引き漁業以外、たとえばツブ籠漁業などにも挑戦したい」と希望を持っていない。今の漁業技術は「まだまだ未熟」との自覚をもち、技術を磨き、親方がいなくとも一人で何でもできるようにしたいと未来を見つめている。



ムベジが目にとまり、関連のホームページにも訪れ、情報を収集するうちに、漁業にもいろいろな種類があり、養殖業は他の漁業と比べて安定していることを知った。ある程度の知識を蓄えた後、平成21年に大阪で開催された漁業就業支援フェアに参加し、結果として北海道での回費による長期実地研修に結びついた。当然、安定性のある養殖漁業という点で主にホタテ養殖漁業や定置網漁業を行っている現在の指導親方である杉本さんにお世話になることになった。

研修に入るに、体力面で非常に辛



北海道で漁師になろう2

『北海道で漁師になろう！』サイト
<http://h-suisankai.or.jp/enter.html>



携帯サイト
<http://h-suisankai.or.jp/mobile>



お問い合わせ
北海道漁業就業支援協議会
 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目
 北海道水産ビル 社団法人 北海道水産会内
 TEL(011)280-3007 FAX(011)280-3008
 E-mail:fish10@h-suisankai.or.jp